

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 山内 彩

論 文 題 目

Validation and factor analysis of the Japanese version of  
the Highs scale in perinatal women

(周産期における Highs scale 日本語版の因子構造および妥当性の検討)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小川 豊昭



名古屋大学教授

委員

志川 史隆



名古屋大学教授

委員

高橋 義行



名古屋大学教授

指導教授

尾崎 紀



## 論文審査の結果の要旨

本研究では、産後の軽躁状態を評価する目的で開発された Highs scale (HS) の日本語版の因子構造および信頼性・妥当性を妊産婦コホートで確認し、妊娠中から産後の期間における躁状態の評価方法としての使用可能性について検討を行った。探索的因子分析および確認的因子分析の結果、妊娠初中期、妊娠後期、産後5日目、産後1か月の全ての時点においてHS日本語版は高揚 (elation) と焦燥 (agitation) の2因子構造であることが明らかとなった。また、HS日本語版の内的整合性および構成概念妥当性が全ての時点で示されたことにより、妊娠中から産後までの期間を通じた信頼性および妥当性が示された。HS日本語版で抽出された2因子のうち、焦燥因子は抑うつ症状との関連がみられ、焦燥因子は躁および抑うつの混合状態とも関連している可能性が示唆された。以上の結果から、妊娠期から産後を通じて躁状態の評価にHSを用いることが可能であり、周産期を通じてスクリーニングを行うことによって、早期発見、適切な診断・評価及び治療介入につながり得ることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

- 1.HSは、英語版で産後の女性を対象とした信頼性や妥当性は報告されているが、日本語版においては信頼性および妥当性に関する報告はない。本研究は、妊娠中から産後の女性を対象としてHSの信頼性および妥当性を検証した初めての報告である。
- 2.周産期はうつ病のみならず、躁症状を呈する双極性障害の発症・再燃率が高いことも指摘されている。出産後に躁症状を呈した人の中には、妊娠中にも躁症状を呈した経験があるとの報告や産後うつ病患者は産後早期に抑うつと軽躁症状の両方を呈していたとの報告がある。また、産後の抑うつ状態には、双極性障害の経過中に見られる抑うつ状態や躁と抑うつの症状が併存する混合状態という可能性もある。そのため、躁症状を評価する尺度を確立することは臨床的に重要である。
- 3.今回、HS日本語版は高揚と焦燥の2因子から構成されるという症候学的特徴が明らかとなり、周産期を通じて症状評価・観察に使用できる評価尺度であることが明らかとなった。双極性障害に対する抗うつ薬使用による焦燥の症状悪化や躁および抑うつの混合状態における焦燥は自殺リスクを増大させるなどの影響を及ぼすことが懸念されている。そのため、妊娠期から産後を通じて経時的にHSで躁症状の評価を行い、高揚と焦燥の症状経過を観察していくことによって、適切な診断と介入方法の選択における一助となり得ると考えられる。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	山内 彩
試験担当者	主査	小川 博昭	吉川 史隆	高橋 義行
	指導教授	三浦 幸三		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. Highs scaleの信頼性・妥当性について
2. 周産期の躁症状について
3. Highs scaleの因子構造および信頼性・妥当性検証による展望

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。